

中国の大学における日本語教育と思政教育の 両立について

劉 瀟 滢

1. はじめに

2018年、中国教育史上初となる、四年制大学各専攻に関する国家スタンダード『普通高等学校本科專業類教學質量國家標準』（以下『国標』）が公表された。

続いて2020年、教育部による『高等学校課程思政建設指導綱要（大学における課程思政建設指導綱要）』（以下『綱要』）が発表された。『綱要』が作成された目的は、思政教育が人材育成計画の全過程を貫くようにするためであった。すなわち、全面的に大学における全ての専攻、すべての課程に思政教育を推し進め、人材育成の質を高めるためである。

それにより、現在中国では、大学において日本語教育と同時に、思政教育も実践しなければならないことになった。そこで、どのようにして日本語教育と思政教育が両立できるのかが、大きな課題となっている。そのような教育実践を構想するために、まず必要とされるものが、目的に合った教材である。

本研究は、現在広く使われている日本語教材を分析した上で、学習者の日本語能力が高まるだけでなく、日本文化と中国文化を比較しながら思政要素も系統的に学べる補助教材を開発することを目的とした実践研究である。開発した補助教材を基に授業を実践しながら、改善を重ねつつ、日本語教育と思政教育の両立ができることを明らかにするものである。

2. 先行研究

本研究では、近年広く実践されている教授法の内容言語統合型学習（以下 CLIL）に基づいて実施した日本語の授業の中で、学習者に日本語教育を受けながら、思政教育の習得にどのような変化がもたらされたのか、つまり、日本語教育と思政教育が両立できるのか、明らかにする。

奥野（2018）によると、CLIL（Content and Language Integrated Learning）とは、「教科学習

などの内容と言語を統合した学習」であり、1990年代からヨーロッパを中心に広まってきた教育アプローチである。

村田 (2017) は、内容言語統合型学習に基づいて実施した日本語の授業が学習者にどのような変化をもたらしたのかを明らかにしている。作文授業を通して、学期開始時と終了時に同じテーマで書かせた作文を比較・分析し、CLIL の有効性を検討している。「内容面」の変化：2 回目の作文のほうが①より具体的な意見が述べられていた②社会問題についての内容が国内から国際レベルに広がっていた。「言語面」の変化：2 回目の作文のほうが難易度の高い語彙が使用されていることがわかった。

日本語教育の分野においても、近年、日本では、CLIL を取り入れた教育の実践報告が見られるようになってきたが、中国国内の教育機関での実践報告はまだ多くはない。本研究は CLIL というアプローチに基づき、補助教材を通して、「言語」+「内容」つまり「日本語」+「思政」、日本語教育と思政教育が両立できるのか、探求していく。

『国標』において、外国語専攻の養成目標は以下のように示されている。

「外国語専攻は、優れた総合的素質と、堅固な外国語の基礎、専門知識、及び能力を有し、関連する専門知識を把握し、我が国の対外交流と国家及び地域の経済社会の発展、各種の対外業界、そして外国語教育及び学術研究において求められる各外国語の専門的な人材と、複合型の外国語人材を育成することを主な目標とする」。いわゆる、外国語専攻の養成目標として、知識目標、能力目標だけではなく、素質（特に思政目標）も養成しなければならない。

現在、日本語教育において思政教育を確立しようとする試みには以下の3つの方法が見られる。①思政教育をめぐって、マクロな視点から、観念的、抽象的に意義や目的を述べる；②主に文化などに焦点を当て、具体的な視点から、思政教育を実践しようとする；③課程内容に思政教育を融合させ、知識と価値観を融合させようとする。

そこで、刘诗钰 (2023) は、思政教育の価値を主張している。外国語専攻だからこそ、思政の重要性は明らかであり、思政教育は学生の成長にも助力することができるということである。江小娟 (2024) では、思政教育の重要性が強調され、現状として、授業の中で、日本語教育の内容が多すぎ、思政教育の導入が不合理になっている、などの問題が指摘されている。解決策として、日本語教育に思政教育を融合させることや、教育実践に思政を入れることが提唱されている。つまり、思政教育をめぐって、抽象的に意義や目的を述べるに留まり、具体的な解決方法には至っていない。

続いて、金海燕 (2023) では、多文化の下で、思政教育がより重要であると主張されている。外国語学習は目的とする国の言語学習であるため、学生が母国文化を失いやすくなるからである。だからこそ、外国語専攻の教育において、思政を入れなければならないというのである。学生が母国文化を理解したうえで、異文化コミュニケーションを実践する時、母国文化も輸出することができるということである。

邓榕（2024）では、日本語教育において、日本文化の融合が不十分であること、中国伝統文化が重視されていないこと、中日文化の対比が不足していることなどの問題が挙げられている。そこで、異文化の視点から、日本語教育における思政教育ストラテジーが提唱されている。思政目標を明確にさせたうえ、思政元素を意識し、教学内容を豊かにする。言語、文字の起源を語り、学生に民族としての自信をつける。中国伝統の礼儀を融合し、学生の思政素養を育む。つまり、文化に焦点を当て、思政教育の実践を試みるということである。

更に、喻义伟（2024）は、実際の日本語教育において思政と日本語の授業の融合が足りないと強調し、標準日本語初級上第20課「春節」を例にして、日本語教育と思政教育の融合を提案している。①教材分析：「春節」を通して、学生に地祭と日本文化の対比を考えさせる。ただし、一言だけである。②授業設計：導入の後、ロールプレイ、グループ発表というタスク重視の方法で実施する。③内容：授業前、中、後、学生にタスクを完成させる。授業の1コマを題材にして、日本語教育と思政教育の融合を試みている。

卜晨晖（2023）では、今の日本語教育は、人材を育むのと同時に、学生に民族の誇りや民族文化に対する自信を高めさせる必要があるということを強調している。「高级日语」という課程に使われる『日语综合教程』という教材の第五册第三课の内容を例にして、日本語教育における思政教育が研究されている。まずは知識面から着手し、リーディングを通して、文法用法を理解させる。次は活用面に移り、学生に問題解決能力を高めさせる。最後は思政面に取り組み、ヨーロッパ近代文明が東洋にもたらす影響などを通して、学生に伝統文化の誇りを持たせるのである。

以上のような先行研究のほとんどで、日本語教育に思政教育を融合する必要性が提唱されている。具体的な方法に関する研究は、管見の限り希少である。

日本語教育における思政教育に関して、以下のような問題が挙げられる。①思政教育の内容に関して日本語教師の意識が不足している。②日本語教育の中に思政が取り入れられているが、融合まではできていない。③教材の中に、思政の内容が少ない。④教師の教育実践において、思政に対する評価が不十分である。

3. 補助教材の開発と実践

3. 1 教材分析の実施

分析対象として、広く使われている『新編日語3』を取り上げるが、それは、この教材が中級レベルの学生向けに作成されており、文法、文化、異文化理解などに配慮されているものだからである。この教材の内容を分析することで、思政教育の融合可能性を探ることにする。

教材の各要素（話題、言葉と表現、本文、会話、応用文）を分析し、思政要素の有無や融合の程度を評価する。その分析結果をもとに、補助教材の開発に向けた具体的な提案を行う。

まず、第1課を例にして、言葉と表現、本文、会話、応用文における思政要素を抽出した。

言葉と表現においては、以下の4文に着目した。①人は見かけでは判断できないものです。②就職は人生の大事なことだ。だからこそよく考えた上で決めなさいと言ったんだ。③土石流の頻発は森林伐採と切り離せません。④地球温暖化はフロンガスの増加とは切り離せません。

本文においては、以下の2文に着目した。①その形は三人の腕がつながり、抱き合っているようにも見え、幸せな家族を表すと同時に、全人類が手をつなぎ、未来へ向かって歩いていく姿を重ね合わせている。②漢字の人をモチーフにした「海宝」は、互いに支えあっている「人」の字の形をもっており、美しい生活は人々が平和に生き、協力し合うことによって造られると強調している。

会話においては、以下の5文に着目した。①何といっても、各国のパビリオンに特色がありましたね。②「より良い都市、より良い生活」そのことばは都市と人間、人間と自然、人間と人間との調和と融合をよく表しています。③上海万博はとても成功した、すばらしい、忘れがたい万博ですね。④上海万博は文字どおり国際的なイベントですね。その規模の大きさに圧倒されました。⑤上海万博の成功は世界各国の支持や援助とは切り離せません。とくに、日本の大阪万博、愛知万博のすばらしい理念と優れた取り組みにいろいろ学びました。

応用文においては、以下の3文に着目した。①異文化に触れて学ぶことも多くなり、現地の方々には色々とお助けしてもらったり、元気付けられたりしました。②色んな場所で色んな役割に臨機応変に対応しなければなりません。③一人でも多くのお客様に満足していただけるように、上海万博の魅力を心から伝えていく。

以上のように、教材『新編日語3』では思政要素が意識されているが、系統的ではない。

3. 2 補助教材の作成

本実践における補助教材は、日本語教育と思政教育の両立を実現するためのツールとして作成された。教材の内容を補うもので、学習者の日本語能力向上と思政目標の達成を支援することを目的としている。

補助教材には、現代生活、学校教育、時代の印象、映画やメディアなどの内容が含まれており、語彙、文法、表現などに思政要素が融合されている。教材を通じて、学生は日本語で思政を理解する能力を高めることができるようになっていく。

CLILのアプローチに基づくことにより、「言語と内容」すなわち「日本語と思政」を共に学習できると考え、作成されたものが、この補助教材であり、科目「基礎日語1～4」に使われている主教材『新編日語1～4』の補充として、シリーズで作成されたのである。「基礎日語1～4」を担当している現場の日本語教師達が協働で作製に当たった。各課のテーマを巡って、知識目標、能力目標、思政目標が明確にされている。各課は文章の解説、文法の補充、練習問題の3部分からなっている。思政に関わる文章を摘出し、日本語で思政を勉強し、理解さ

せる。文法の補充には、思政に関わる例文を取り上げ、文法をマスターしつつ、思政を理解させる。練習では、文法と同時に、思政もチェックすることができる。

3. 3 補助教材の実践

「基礎日語3」という授業は、週に10コマ（1コマ45分）あり、毎日2コマの授業が行われる。月曜日と火曜日は語彙、文法を中心に、水曜日と木曜日は本文、会話、応用文の説明、金曜日は練習部分の解説という進め方である。シラバスはOBE（Outcome Based Education すなわちアウトカム基盤型教育）に基づき、「知識、能力、思政」という三つの目標が設定されている。「知識」目標は、学生に日本語の文字、語彙、文法を理解させることである。「能力」目標は、専攻に対する技能を身につけさせるだけでなく、ほかのスキルも達成させることである。「思政」目標も明確にされている。

2024-2025学年秋学期に、「基礎日語3」という授業に補助教材を使用する実践を試みた。補助教材は文法と文章を補うもので、学生に「日本語（知識目標と能力目標）」、「思政」を共に学ばせることができるか、授業の実践を通して、明らかにしようとした。

4. 実践結果の分析

4. 1 アンケート調査の結果

「基礎日語3」で補助教材を使用した二年次の学生を対象に、知識目標、能力目標、思政目標の達成度を評価するためにアンケート調査を行った。調査結果を通じて、補助教材の効果を検証し、今後の教材改善の参考とするためである。回収した121の回答をもとに、因子分析を行い、各目標の達成度を評価した。

SPSSを使用してアンケート変数の信頼性を分析した。信頼性テストの結果は表1の通りである。知識目標の達成度、能力目標の達成度、思政目標の達成度、総合的な目標の達成度の各次元のCronbach's α はそれぞれ0.982、0.988、0.981、0.972、0.852、総合信頼度は0.995であり、いずれも0.8を超えている。よって、このアンケート結果は信頼性が高いと考えられる。

表1 アンケートの信頼性テスト

次元	項目	クロンバックの α 係数
知識目標の達成度	5	0.934
能力目標の達成度	7	0.988
思政目標の達成度	5	0.981
総合的な目標の達成度	3	0.972
全体	20	0.995

変数設定の科学的妥当性を判断するために探索的因子を用いた。表2のように、探索的因子分析の適合性を決定するために、KMO値とBartlettの球形検定が用いられた。質問票のKMO値は0.888で0.7を上回り、近似カイ二乗値は6768.123、自由度 df は190、 p 値は0.000で有意水準0.05を下回り、調査データは情報の抽出に適していると言える。

表2 KMOとBartlett

	KMO値	0.888
Bartlett球形度検査	近似カイ二乗	6768.123
	df	190
	p 値	0.000

思政目標に関わる5つの項目に関する周波数分析の結果は、表3の通りである。

アンケート調査の結果より、各項目から、思政に対する理解がより明らかに強化され、思政目標がより良い程度に達成されていることが分かった。知識目標の達成、能力目標の達成、思政目標の達成は、いずれも日本語と思政の総合達成度に有意なプラスの影響を与えることがわかった。

4.2 インタビュー調査の結果

アンケート調査を補うべく、2024-2025学年秋学期に「基礎日語3」を担当した3名の教師を対象に、半構造化インタビューを実施した。

インタビューは以下のようなものであった。

Q：思政目標についてですが、まず補助教材を通して、日本語で思政を理解する能力が全体的に向上できたか教えてください。

A：はい、補助教材の中で補充した読解の資料としてのニュース記事は、ほぼ思政に関する内容です。学生はいろいろなニュースを読むことによって、中国だけではなく、日本の国際的なニュースから学んでいた。日本語で思政を理解することもできました。

Q：補助教材の中で思政に関するニュースや資料がたくさん載せてあって、学生は補助教材を通して、社会主義の核心的価値観、それと中国の特色ある社会主義の道と体制に対して、自信が強まったでしょうか。どう考えていますか。

A：補助教材を通して、確かに学生は前よりは中国の思政要素についてよく理解していました。その社会主義の核心的価値観についてもです。中国の優れた伝統文化に対して、教育が強化されていて、中国の特色ある社会主義に対する文化的自信もしっかりと確立されました。

表3 周波数分析

名称	オプション	人数	パーセント (%)	累積パーセント (%)
13. 補助教材を通して、日本語の知識・能力が向上し、日本語で思政を理解する能力も向上した。	非常にそう思う	78	64.463	64.463
	まあまあそう思う	31	25.62	90.083
	そう思う	8	6.612	96.694
	そう思わない	3	2.479	99.174
	非常に そう思わない	1	0.826	100
14. 補助教材を通して、文法構造、語彙の使い方、表現など、日本語と中国語の特徴や違いを比較することで、日本語の言語特性についての理解を深めることができる。文化的伝統、社会習慣、価値観などの面で中国と日本の類似点と相違点を分析することによって、学生は日本の社会と文化をよりよく理解し、適応できるようになる。	非常にそう思う	78	64.463	64.463
	まあまあそう思う	32	26.446	90.909
	そう思う	6	4.959	95.868
	そう思わない	3	2.479	98.347
	非常に そう思わない	2	1.653	100
15. 補助教材を通して、学生の強国意識が高まり、社会主義の核心的価値観である「富強」と「法治」が培われ、中国の特色ある社会主義の道と体制に対する自信が強まる。	非常にそう思う	79	65.289	65.289
	まあまあそう思う	31	25.62	90.909
	そう思う	8	6.612	97.521
	そう思わない	2	1.653	99.174
	非常に そう思わない	1	0.826	100
16. 補助教材を通して、学生の中国の優れた伝統文化に対する教育が強化され、学生の社会主義に対する文化的自信がしっかりと確立された。学生は自分なりに日本語で中国の物語を語る事ができる。	非常にそう思う	77	63.636	63.636
	まあまあそう思う	32	26.446	90.083
	そう思う	10	8.264	98.347
	そう思わない	1	0.826	99.174
	非常に そう思わない	1	0.826	100
17. 補助教材を通して、日本語で国の政策や国際情勢を合理的に分析することができる。同時に、科学を尊重する自信を持つことができる。	非常にそう思う	80	66.116	66.116
	まあまあそう思う	30	24.793	90.909
	そう思う	9	7.438	98.347
	そう思わない	1	0.826	99.174
	非常に そう思わない	1	0.826	100
合計		121	100	100

Q：学生は自分なりに日本語で中国の物語を語る事ができたでしょうか。どう考えていますか。

A：実はうちの学院では、もう3回も「日本語で中国の物語を語る」という大会を開いています。みんないろいろな中国の物語を日本語で語っていて、私も感心しました。補助教材の

中で、中国の優れた伝統文化に関するたくさんの読解文があって、つまり、自分の中国の優れた文化をアピールすることによって、学生に中国の文化的自信ができた。それも実戦力として、授業外の時間でコンクール等によって日本語で中国の物語を語ります。つまり授業の中で補助教材を通して学んだその知識を授業外のそのコンクールで生かしていくということです。

Q：思政目標の達成度についてですが、今回の補助教材を通して、先程おっしゃったように、日本語の知識や能力が向上したことが明らかになりましたが、日本語で思政を理解する能力についてどう考えていますか。

A：もちろん、思政に対する理解力が高まっていると思います。まず政治用語、普段あまり触れていない政治用語の日本語の表現も身につきますが、それだけではなく、政治問題に対する理解、自分の考えを日本語で発表することもできます。その補助教材の素材は毎回の内容から見ると、読解の素材として政治ニュースの内容も入っています。学生に読ませて、政治に関する論点、政治的視点から問題を考える機会も多くなっています。

Q：補助教材を使う前と使った後の区別、思政目標の達成度に関する区別について、もう少し具体的に説明してもらえますか。

A：補助教材を使う前は、ちょっと中国の思政要素と日本語はなかなか繋がらないと思っていました。教師は単語を説明するときや例文を作るときも、思政要素に近づくような例文を作って、学生に説明します。だいたいそうします。補助教材の中には色々な読解文があって、その読解文は毎回の授業と関連付けられていますので、説明しやすくなったと思います。

Q：思政目標の達成についても、補助教材を使った後ではより高くなりましたか。

A：補助教材は大学の教材と繋がっており、関連付けられていますので、前よりは体系的に授業ができています。以前は教師が単語を説明したり、文法の例文に思政要素を考えて入れたりしていましたが、この補助教材によって、教師から一方的に思政を説明するだけではなく、学生の日本語で思政について理解したり、使いこなしたりする能力も高くなりました。

続いて、KH Coder を使用してインタビューの発話を分析し、図1のような語彙共起ネットワークが得られた。線で結ばれた共起ネットワークは、高い共起関係を持つ単語を示しており、各ノードの円の大きさは、その語の出現頻度に応じて決まるものである。

中国の大学における日本語教育には多様な要素の融合が求められており、日本語教育と思政教育の両立も重要な課題となっていることが分かる。

図1から、「日本語」「学生」「内容」「補助教材」などのキーワードが高頻度で出現していることがわかる。教育の対象である「学生」のニーズやレベルに合わせた教育が求められてお

ていることが見受けられる。思政に関する日本語の文章において、社会や文化に関する内容が増えており、そこに思政教育の理念や価値観が潜んでいる。これにより、学生は日本語の学習を通じて、思政に対する理解を深めることができる。中国の伝統的な優秀文化をアピールし、自文化についての自信も強まっている。

5. おわりに

近年、日本語教育において、単なる言語知識、能力の向上を目指すだけでなく、学生の総合的な素質の育成にも注目が集まっている。現状として、日本語教育と思政教育の融合が不足していることを意識し、現在使われている教材の分析に基づき、補助教材を作成した。具体的な授業実践を通じて、日本語教育と思政教育、両者の相乗効果を検証した。アンケートやインタビュー調査の結果を分析することで、補助教材を通して、日本語教育において、知識目標と能力目標の向上ができたうえ、思政目標も達成できた。つまり、補助教材を通して、日本語教育と思政教育が両立できたことがわかった。

しかし日本語教育にはまだ課題が存在している。まず、教師の専門性の不足が挙げられる。日本語教師は言語面の専門性が高いが、思政教育に関する知識や指導法に不慣れな場合がある。また、補助教材の使い方においても、日本語教育と思政教育のバランスが適切に取れていないことが多い。これらの課題を解決するために、まず教師研修が重要になる。日本語教師に対して、思政教育の理念や実践方法を学ぶ機会を提供することで、専門性を向上させることができる。また、日本語教育と思政教育の両面からアプローチし、補助教材によって、両者を有機的に融合させることが求められる。教育関係者が日本語教育と思政教育を両立させるという意識を強く持ち、教育内容を充実させることで、日本語教育と思政教育の質の向上が期待できるであろう。

【参考文献】

- 奥野由紀子, 2018, 『CLIL 日本語教育シリーズ日本語教師のための CLIL (内容言語統合型学習) 入門』, 凡人社.
- 溝井真人, 2024, 「中国の大学日本語教育における「思政」教育——その受容と課題を巡って——」, 『早稲田大学 日本語学研究所と資料の会』 47: 53-72.
- 村田裕美子, 2017, 「内容言語統合型学習による学習者の「内容面」と「言語面」の変化」, 『日本語教育方法研究会誌』 24巻 1号 : 6-7.
- 卜晨晖, 2023, 「习近平青年观融入高校外语课程教学的探索与实践——以“高级日语”课程为例」, 『太原市职业技术学院学报』 : 91-93.
- 邓榕, 2024, 「跨文化视角下高效日语课程思政教学策略研究」, 『佳木斯职业学院学报』 : 136-138.
- 江小娟, 2024, 「大学日语课程思政融合建设思路及实施路径研究——以广州理工学院为例」, 『高教学刊』 : 173-176.

中国の大学における日本語教育と思政教育の両立について

金海燕, 2023, 「多元文化視域下課程思政滲透外語專業文化教學的路徑」, 『湖北開放職業學院學報』: 115-117.

刘诗钰, 2023, 「民办高校外语教学课程思政模式的构建实践」, 『哈尔滨职业技术学院学报』: 157-159.

喻义伟, 2024, 「“课程思政”融入高职日语教学的实践研究 - 以标准日语第20课《春节》为例」, 『大众文艺』: 117-119.

(りゅう しょうえい: 上海建橋學院國際教育學院 院長 城西國際大學人文科學研究科比較文化專攻在籍)

Abstracts

On Balancing Japanese Language Education and Political Education in Chinese Universities

Liu Xiaoying

Up to now, Japanese language education in Chinese universities has centered on characters, vocabulary and grammar. In 2020, the Ministry of Education of China issued an instruction to promote ideological and political education across all majors and all courses. As the current Japanese language textbooks are considered to have insufficient content related to ideological and political education, we have compiled supplementary teaching materials and developed educational practices that enable students to learn Japanese and ideological and political content in an integrated way.

Keywords: Content and Language Integrated Learning (CLIL), Japanese Language Education, Ideological and Political Education, Supplementary Teaching Materials